

会議詳細

開催日時	令和7年10月14日（火）午後7時から午後8時45分まで
開催場所	長久手市公民館（長久手市役所西庁舎3階）講義室
出席者氏名	<p>10名中9名出席</p> <p>委員長 梶田 美香</p> <p>委員 川北 眞紀子</p> <p>委員 佐藤 文子</p> <p>委員 渡邊 玲雄</p> <p>委員 浅野 芳夫</p> <p>委員 加藤 千恵</p> <p>委員 野田 かなえ</p> <p>委員 大村 真也</p> <p>委員 小林 大地</p> <p>（事務局）</p> <p>くらし文化部次長兼文化の家館長、生涯学習課施設係長、同事業係長、施設係主任</p>
審議の概要	<p>1 あいさつ</p> <p>2 報告事項</p> <p>（1）文化の家管理運営報告</p> <p>（2）文化の家自主事業報告</p> <p>3 その他</p>
欠席者氏名	委員 唐澤 美穂
公開非公開の別	公開
傍聴者人数	0人
問合先	長久手市くらし文化部生涯学習課 電話：0561-61-3411

議事要旨

事務局	会議成立を確認
事務局	<p><くらし文化部次長兼文化の家館長あいさつ></p> <p>10月1日から文化の家館長となった。前任の館長は一身上の都合で9月末で退職となった。今後とも、一層のご支援を賜りたい。</p>

<p>委員長</p>	<p><委員長の選出及び職務代理者の指名> 互選により、委員長は梶田美香委員に決定。職務代理者には、浅野芳夫委員が指名された。</p> <p>委員長就任あいさつ</p>
<p>事務局</p>	<p>報告事項(1)文化の家管理運営報告 【資料1】をもとに説明 また、事業総点検及び中央図書館・文化の家の都市計画決定と計画的な維持修繕・改修について口頭で説明。</p> <p>資料には記載がないが、事業総点検と都市計画決定について報告する。 新聞報道や市ホームページへの掲載ががあったため、ご存知の方もいるかもしれないが、長久手市は今、事業総点検に取り組んでいる。総点検の目的は、①既存事業が今の市民ニーズに合っているか検証、②健全な財政運営を行うための財源の確保、③新たな事業に取るための創造的な時間の確保の3つである。 市のすべての事業のうち継続、改善、廃止、新たな歳入確保の検討を行った。文化の家施設管理事業は、業務の効率化や運用方法を見直すことで、管理費を削減しながら、サービスの低下を招かないように運営していくこととなった。文化の家企画事業も自主事業の内容、運営方法を見直すことで、事業費を削減することとなった。この方針を踏まえ、職員は運営方法等の見直しを進めていく。 次に、文化の家を都市施設として都市計画決定する手続きが進められている。長久手市では、今後必要とされる公共施設を都市計画に定め、運営を行う方針で、地域の中でどこでどんな施設を作るのか等のルールを決め、住みやすい街にするという目的がある。例えば、長久手市では浄化センターや都市計画公園、土地区画整理事業等が都市計画に定められている。 文化の家を新たに教育文化施設として都市計画決定することで、修繕と持続可能な施設運営ができるようになり、より魅力的な文化交流拠点の形成ができる。</p>

委員	<p>長久手市にはすでに「都市計画マスタープラン」と「立地適正化計画」がある。都市計画マスタープランでは、地域の芸術、文化活動の拠点として、また、市民の学びや交流の場として文化の家を「文化交流拠点」として位置づけ、文化を通じた交流機能を目指すとしている。立地適正化計画において、都市計画マスタープランで位置づけた「文化交流拠点」の都市機能誘導区域として「古戦場、杵ヶ池公園・はなみずき通り駅ゾーン」の中で、文化の家は市にとって必要な施設であると都市計画上の必要性が整理された。二つの計画をもって、文化の家が都市計画上での必要性が整理されたため、今後、都市計画決定を経て、施設の改修や維持修繕を都市計画事業として進められるようになる。文化の家の整備等に都市計画税を投入ができるようになる。</p> <p>これらの計画とは別に、文化の家では将来的な修繕、改修を見据えた設備等修繕計画を今年度策定する。</p> <p>なお、令和7年7月から8月にかけて、都市計画に関するワークショップを開催した。文化の家と図書館、桧ヶ根公園のエリアを、どのような繋がりや賑わいができたらよいか、という様々な意見をいただいた。今後修繕計画にも意見を反映する予定である。経過をまた次回の会議の時に報告する。</p> <p>2点ほどお伺いしたい。キャッシュレス決済手数料はどこが負担しているのか。また、返金の際の手数料はどのようなか。</p> <p>都市計画決定はよいことだが、建物維持のことと運営のことは一体的に考えるべき問題だと思う。文化の家が置かれている現状で、運営に関する不安を感じている。改修工事に入った時期に職員数が減ったと聞いた。</p> <p>文化の家職員の人員体制及び職員数は休館明けに戻る見込みはあるのか。この問題は重大だ。前館長その前任者も専門職員が務め、専門職としての役割を果たしてきた。現館長は兼務しているとのことであるが、文化の家は日本でも重要な劇場の一つであり、館長職は兼務で続けられるものではないと考える。この先、専門的な館長を置くつもり</p>
----	---

	<p>はあるのか。</p> <p>事業総点検で経費削減の話もあったが、人員配置や人件費も経費に繋がる問題であり、職員の時間外労働、さらにはライフワークバランスの維持にも焦点を当てなければならない。都市計画決定を経て改修工事が可能となってもマンパワー不足により実行できなくなってしまうのではないか。今までの文化の家の職場の雰囲気の良い、自主事業の質の高さ等、素晴らしいところが失われかねない危機である。人の離脱や規模の縮小が進んでしまわないか、さらにそのことが、長久手市にとって文化の家の存在意義を下げてしまい、優先順位を落としてしまうのではないか、と危機感をもっている。以上のような懸念もあるため、確認させてほしい。</p>
事務局	<p>キャッシュレス決済について、決済手数料は市が負担する。利用キャンセル時については、今までどおり使用料還付手続をとるため、口座振込で返金する。その際の振込手数料は長久手市で負担する。</p>
事務局	<p>都市計画決定を受け、都市計画税を施設に投入できるようになる。8月には、中央図書館と共同でイベントを開催するなど連動性や賑わいづくりを通して、文化交流拠点としての役割を果たすべく、機運を高めている。今後も施設の維持管理と運営は一体となって計画していく。</p> <p>改修工事中は人員減とされている。改修工事後に戻るかどうかはわからない。専門職員と一般職員が共存した事業展開が文化の家の大きな特徴の一つであることは認識している。前館長在任中も専門職員の採用や将来の館長のあり方について協議してきた。今後も継続協議していくが、改修工事終了後の人員配置も含めて、確実な回答はできない。事業総点検は、文化の家だけが対象ではなく、長久手市全体として人とお金のかけ方の総点検である。税金を投入していく上で、文化の家だけが特別ということは、避けられない状況である。今後のことについては、上層部と十分に協議を重ねていきたい。財源は人件費等の経常経費増やふるさと納税による流出もあり、かなり限られてきてい</p>

	る。
委員	<p>長久手市はそんなに財政が悪化しているのか。長久手のブランドを支えてきた文化の家事業をなぜ圧迫するような展開になっているのか。事業を見直す必要性も理解できるが、点検した結果、市にとって重要な事業であるから増やす、という展開もあるのではないか。それどころか、一律で経費及び人員を減らす前提で議論が進んでいることに違和感がある。他の委員が危惧しているようなマンパワー不足や人の離脱、事業の規模縮小が一度起きてしまうと、元に戻すのが非常に困難となる。今後の文化の家にとって、今が瀬戸際ではないか。市全体として規模を縮小するから、文化の家もそれに従い、何もしないまま衰退してもよいのか。長久手市の文化の良さをなくしてしまうのではないか。</p>
事務局	<p>建物維持や事業展開には経費が必要あることは承知している。制限のある中で、可能な限り質は保っていきたい。経費削減できる工夫や財源確保にも取り組んでいく。長久手市の財政状況が厳しいことはご理解いただきたい。</p>
委員	<p>財源確保や経費削減のための工夫には、今まで以上のマンパワーがかかることは承知しているのか。</p>
事務局	<p>承知している。</p>
委員	<p>文化芸術マスタープランをもっても文化の家事業の重要性は訴えられないのか。2019年の自主事業で山下さんのクラシックギター公演を聞きにきた。実現性が困難であり、質も非常に高い公演を地元長久手で聴けたことにとても感激した。実現可能にした礎にマスタープランがあることを後から知った。文化の家の大切さをもっと広く訴えてほしい。</p>
委員長	<p>今までの調査研究において、文化の家事業や公演のために、全国から長久手に足を運んだ、という人もいる。文化</p>

	<p>の家が吸引力のある事業を展開している証拠である。文化芸術は、量的評価は難しく、質的な評価が欠かせない。文化の家に対する質的な評価は長久手市としてどのようなものか。また、この状況について市民への説明はどのようにするつもりか。</p>
事務局	<p>質的な評価に関する説明には苦慮している。評価者の理解する姿勢、知識量など背景が様々である。市としての評価は、25周年記念誌にも記載があるように25年もの歳月をかけ、地域でアーティストや市民等、様々な繋がりを構築しながら事業を展開してきた。長久手でしかできない、長久手でしか出会えない、文化の家が生み出した長久手クオリティが質の評価につながっていると信じている。それをいかに評価していただくか、市民に理解していただくかが課題である。文化芸術マスタープランに基づき、質の担保はしていく。</p>
委員長	<p>今までどおりの事業展開は難しくなると思うが、市民への説明はどのようなか。</p>
事務局	<p>現状では、どのように説明していくかもまだ検討中である。</p>
委員	<p>今までの回答だと今後の文化の家について危機感を持っている。市民は、今までの運営が良かった分、市民はこれからは文化の家は変わらないだろうと安心感すらあると思う。変化を疑わずに、事態が深刻化してから騒動になる可能性がある。評価がもともと高いがゆえにその評価を維持するためには相当な努力が求められる。事業展開には人員が必要。館長を始めとする上層部が今、職員を守らなければならない。</p> <p>長久手市文化の家は本当に良い劇場である。職員のため、市民のため、さらには県民、文化の家の事業を支持している全国の人のためにも文化の家を守ってほしい。</p> <p>文化の家の危機的な状況について、自分たち委員の発言を広める等してもらってもよいので、市民にもっと知っても</p>

	<p>らう必要があるのではないか。</p>
委員	<p>危機感を出すというのがよいと思う。市民など、外の人たちから見たら、文化の家が休館しているから特に目立った動きがないと思っているのではないか。自分もなんとなく文化の家の状況は聞いていたが、ここまで深刻な事態だとは思っていなかった。マンパワーが限界であるのはもっと発信してはどうか。当事者は文化の家に来ている人だ。利益を享受している人にこの状況をもっと知ってもらう必要がある。</p>
委員長	<p>愛知県立芸術大学としてはどのような認識をしているのか。</p>
委員	<p>ここまで深刻な状況であるとは知らなかった。この状況を広く知ってもらった方がよい。大学でも予算が限られてきており、様々な方法で持ちこたえている。スポンサーの獲得やクラウドファンディング連携事業の実施などの外部資金の投入や研究費の精査などに取り組んでいる。新学長のもと資金獲得を進め、少しずつ実績が出てきているところである。</p>
委員	<p>森のホール及び風のホールは令和8年9月に利用再開予定で、令和7年9月に利用申込が開始されたが、現時点で両ホールの申込み状況はどれくらいか。文化の家のホールが市民にとって、使いたい、参加したい場所という役割も持っている。一般的にどれくらいの方が美術や音楽が好きかはわからない。しかし、家族や友達が舞台上上がると芸術文化への興味関心度にかかわらず、劇場に足を運ぶ。自主事業も大事だが、より幅広い人が劇場に足を運ぶイベントを開催したい人がどのくらいいるのか知りたいので、申込み状況を教えてほしい。利用申込みが少ないようであれば、学内で声をかけて文化の家で演奏会を企画できるように動くこともできる。</p>
事務局	<p>森のホールは5組、風のホールは7組の利用申込みがあ</p>

	<p>る。現時点で9月の土・日・祝日はすべて自主事業、公用利用、一般利用の予約が入っている状況である。</p>
事務局	<p>委員のみなさまのご意見から、発信の重要性を認識したので、これから取り組んでいきたい。</p>
	<p>報告事項(2)文化の家自主事業報告</p>
事務局	<p>【資料2－1】及び【資料2－2】を基に説明</p>
委員長	<p>文化の家独自の公演をパッケージ化して、他の文化施設に販売することで資金調達できるのではないか。</p>
事務局	<p>朗読と音楽で紡ぐシリーズについては、他会館で実施希望があり、パッケージ販売を検討している。</p>
委員長	<p>そのためにもマンパワーが必要である。 他に意見がなければ、令和7年度第1回長久手市文化の家運営委員会を終了とする。</p>